

経営比較分析表

宮城県 宮崎市

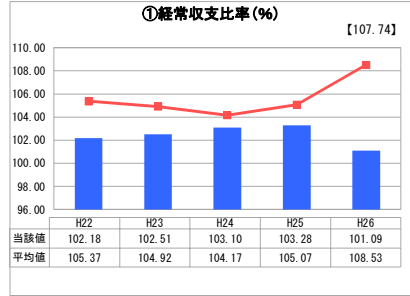
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	50.15	83.38	80.16

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
405,750	643.67	630.37
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
337,085	68.81	4,898.78

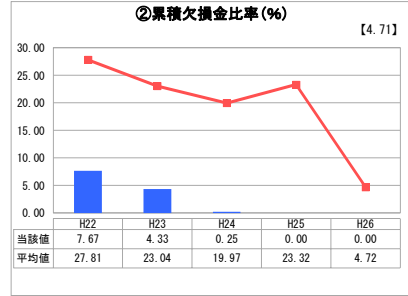
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成26年度全国平均

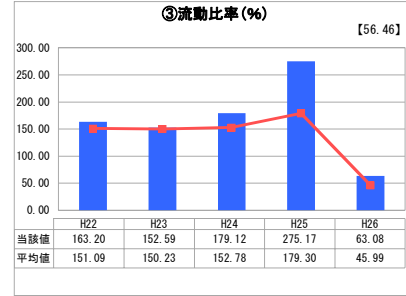
1. 経営の健全性・効率性



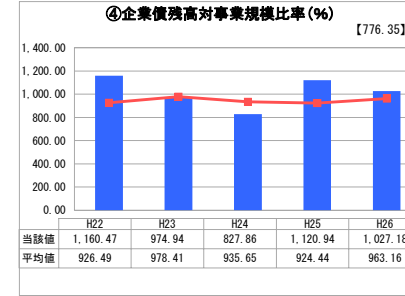
「経常損益」



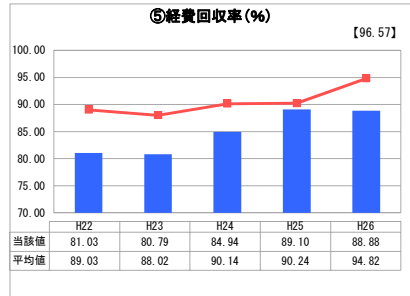
「累積欠損」



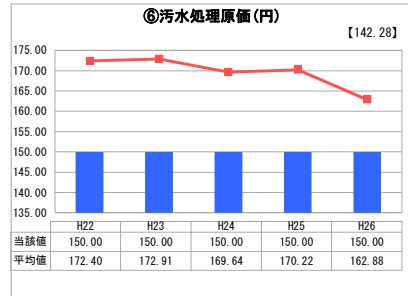
「支払能力」



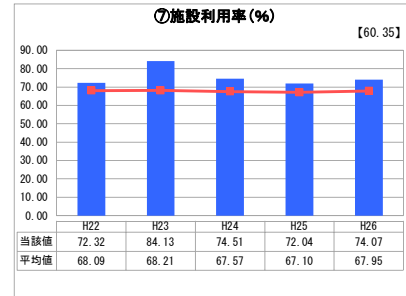
「債務残高」



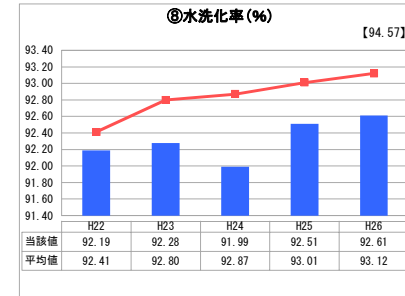
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

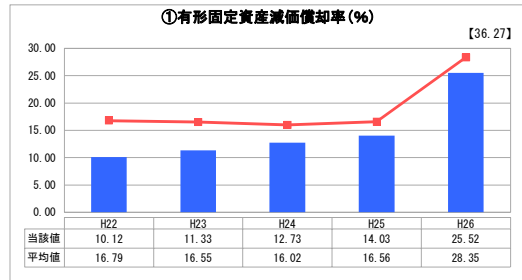


「施設の効率性」

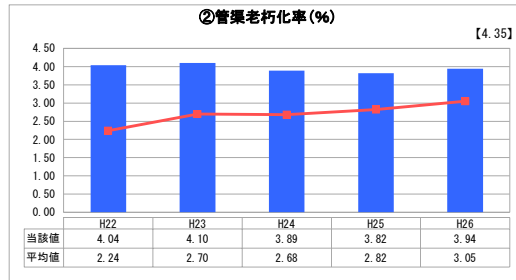


「使用料対象の捕捉」

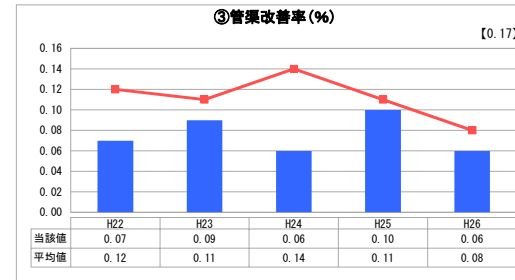
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

●経営の健全性について
累積欠損がなく、「流動比率」は会計制度見直しの影響によりH25年度に比べ低くなっておりませんが、支払能力としては、十分な水準にあると考えます。

また、「企業債残高対事業規模比率」は、類似団体平均や全国平均よりも高くなっておりませんが、企業債残高は年々減少している状況です。

「経常収支比率」は、100%以上を維持していますが、収支不足分を一般会計からの繰入金で賄っているためであり、「経費回収率」は、100%を下回る水準となっています。このため、下水道使用料水準の見直しが必要なる状況です。

これまでも段階的に下水道使用料の引き上げを行っており、直近ではH24年10月に実施しておりますが、今後も定期的に使用料水準の見直しが必要と考えます。

●効率性について

「施設利用率」は類似団体や全国の平均より高く効率性は高いと言えます。本市では現在整備区域を拡大しているため、「水洗化率」は類似団体や全国の平均より低くなっておりませんが、年々上昇傾向にあり、今後もその傾向は続くものと考えます。

注) 「経常収支比率」、「流動比率」、「経費回収率」のH26年度の数値については、会計制度見直しによる影響も含まれております。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均や全国平均より低くなっておりませんが、今後も年々上昇する見込みです。

本市では現在も整備区域を拡大しており、下水道維持管理延長が増加しているため、「管渠老朽化率」は4%前後で推移しておりますが、法定耐用年数を経過した管渠が増えつつあります。

また、長寿命化計画に基づいた改築更新を行っておりますが、下水道維持管理延長が増加していることもあり、「管渠改善率」は低い割合となっております。

注) 「有形固定資産減価償却率」のH26年度の数値については、会計制度見直しによる影響も含まれております。

全体総括

本市では、公共下水道事業と特定環境保全公共下水道事業を1つの会計(公共下水道事業会計)で実施しており、使用料体系も同一となっております。公共下水道事業は、現在も整備区域を拡大しており、H31年度末の完了を目標としておりますが、今後法定耐用年数を経過する管渠の増加が見込まれることから、更新について検討していく必要があります。

また、公営企業の原則である独立採算の観点から、定期的な下水道使用料の改定について検討していく必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。